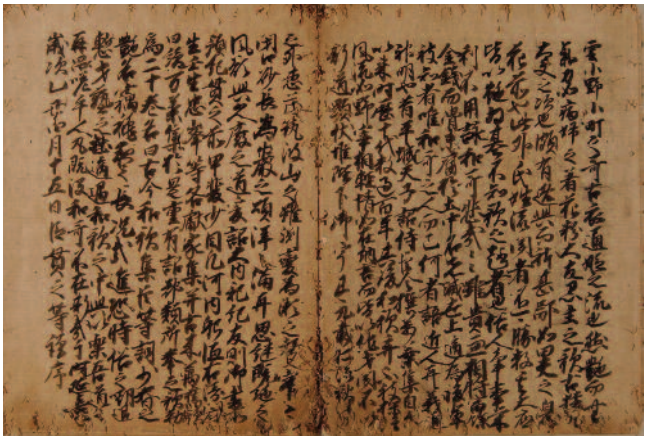
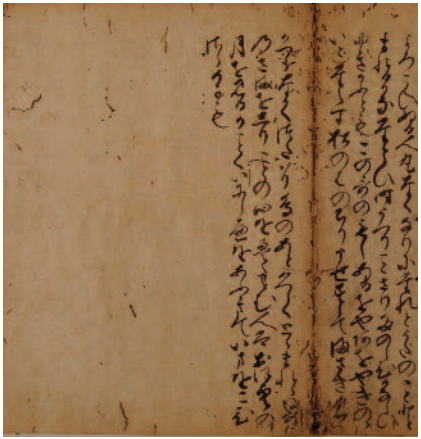
077　古今和歌集　　大１帖　品切れ

=鎌倉時代後期寫　本ノ大キサ 25.0×18.7 糎　粘葉装
料紙は鳥ノ子紙、首尾にやや虫喰いがあるが中に入るほどに虫喰いが少なくなる。傳來のままの未補修。
巻頭に眞名序、次に仮名序、本文20巻を合册。奥書はなし。

巻頭に眞名序を有する鎌倉時代寫と斷定される傳本と比べるとやや大振り。定家本系の所謂公家本の多くは1丁ノ行數ガ8行～10行が主流なるも本書は12行。公家本系の傳本と比べて書風は猛々しい。書寫は僧侶または武家によるものか。

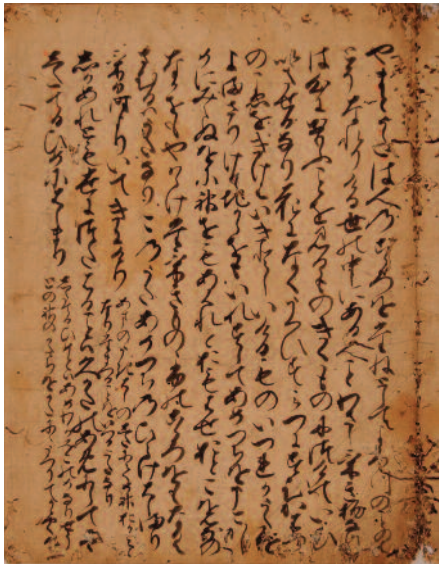
藏書印「桂廼舎」は不明。だが押捺された藏書印の印肉は比較的若い。
「桂廼舎」を調べると昭和初期に『桂廼舎歌集』と題した刊本を著した松園春美という歌人が存在した。印肉の色合いからみてその人物の可能性が高い。

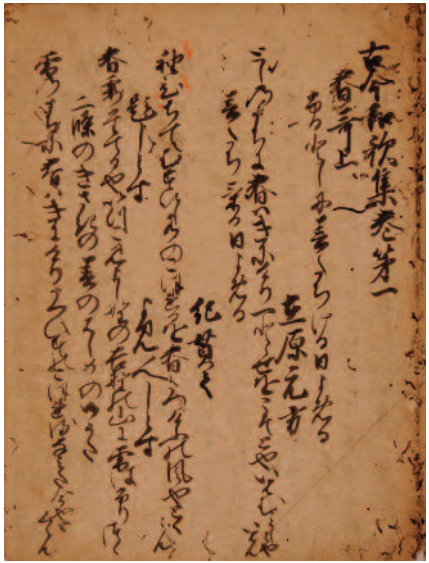




古今和歌集序

夫和歌者託其根於心化物成其葉於詞林者也人之在世不能無爲思之所動者見聞焉生於志詠形於言是以感天地動鬼神化人倫和夫婦矣近於和歌有六義一曰風二曰賦三曰比四曰興五曰雅六曰頌若文者關雎之興草中鳴蛙之吟樹上雅鶯之囀折花成可謂物皆有之自然之理也然而神武天皇代時質人淳情未分和歌未作素戔嗚尊到出雲國始有三十一字之詠今反歌作也其後飛天神之孫海童之女奥石之神





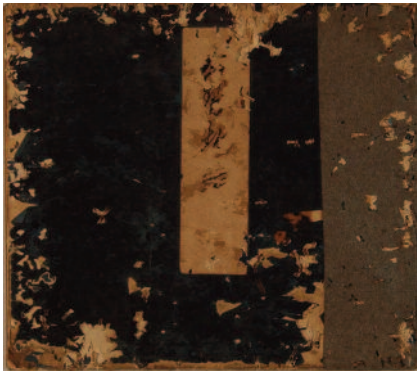
古今和歌集卷第一

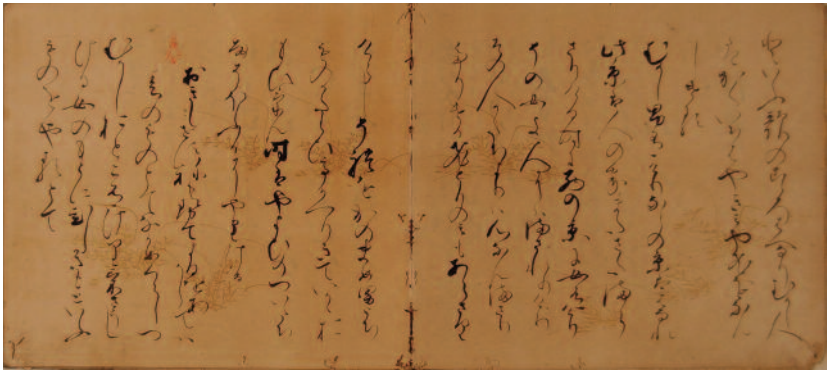
春歌上

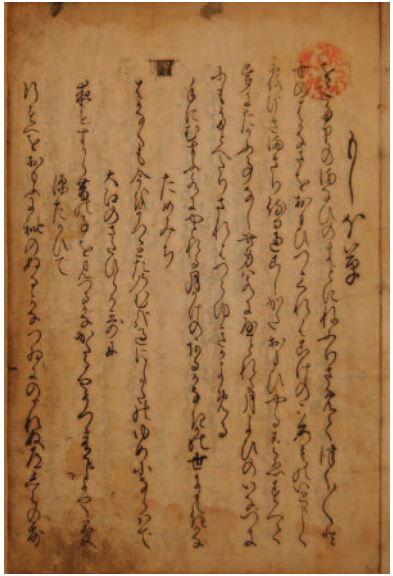
立原元方

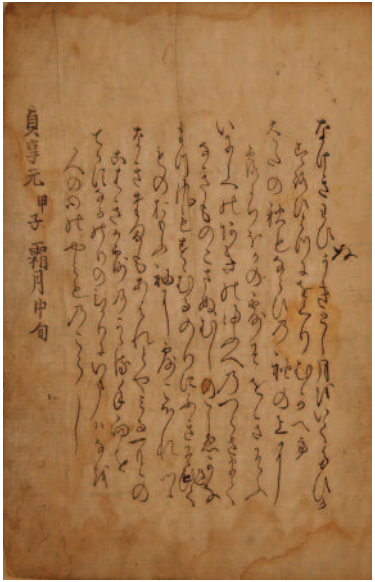
紀貫之

=室町末期頃寫。本の大きさ 16.5×18.5㎝。粘葉装の綴外れ。少虫未補修。料紙は全丁金泥で草花を描いた鳥ノ子紙。書寫奥書は無し。
本書にも「桂廼舎」の藏書印。



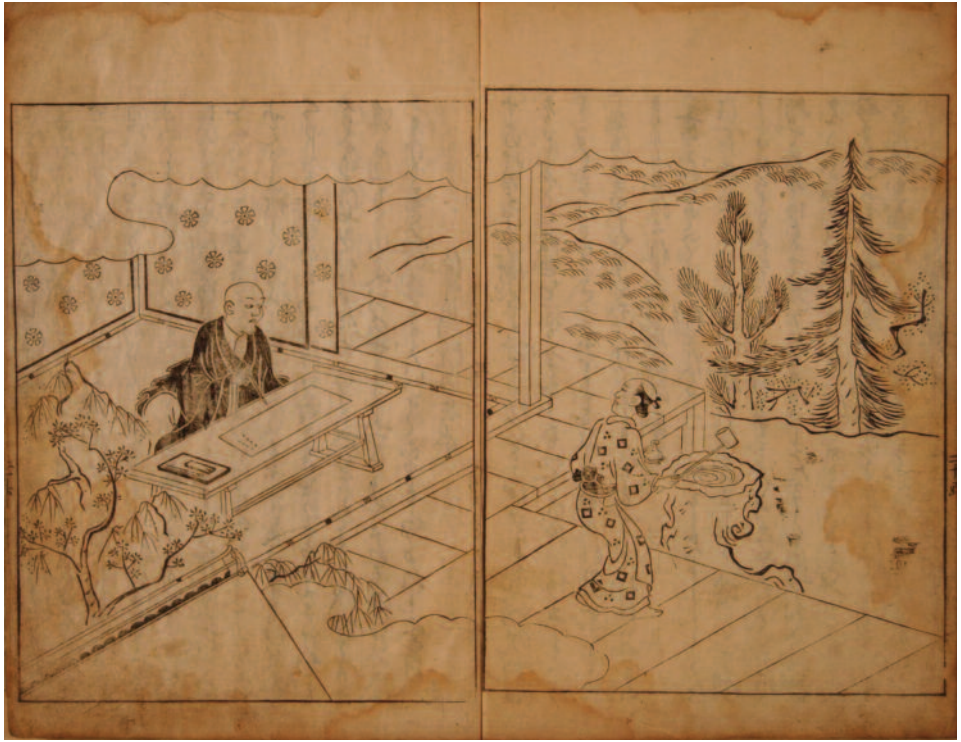






079　もしほ草　　大1冊　2,500,000

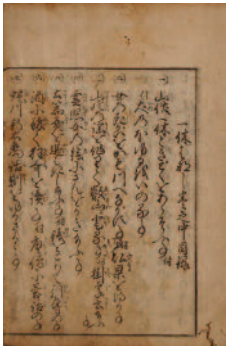
=菱川師宣画　貞享元甲子霜月中旬　原表紙原題簽附　但し原題簽と思われる題簽は擦れにより僅かに墨が殘る状態である。
本文の丁附ケハ「一」～「二十八」。更に末尾の刋記のある一丁を含めると全部で二十九丁。
本の大きさ28.0×20.0糎。插繪は全て見開きで八圖。末尾二丁ほどに薄墨で悪戯ら書が少々ある。師宣在名本ではないが『國書總目録』に從った。しかし『師宣祐信繪本書誌』に掲載されていない。『國書』によれば徳富蘇峰舊藏のお茶の水圖書館成簣堂文庫の一本を記すのみで、あらゆる書誌や古書目録等を調べたが同名本の記録は見當たらなかった。おそらく極めて傳存が珍しいと考えられる。師宣研究の新資料となる事を期待したい。

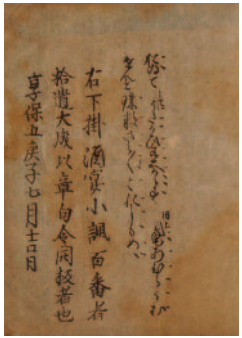


080　釋迦八相　如來一代記　江城下書林南泉堂　天和４年刊　　半６册　50,000
　　=巻 1～5・８（大尾）　傷み有り未補修　題簽附　巻８裏紙欠

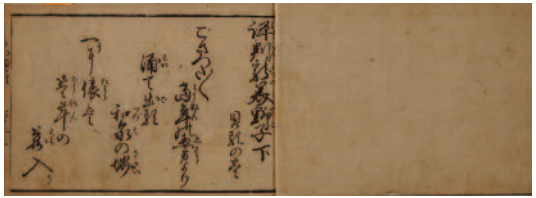
081　改正　有職小説　６巻　簽　駒谷散人郁輯　元禄 11 年刊　　中６册　35,000
　　=武江書林千鐘堂／須原茂兵衛藏版

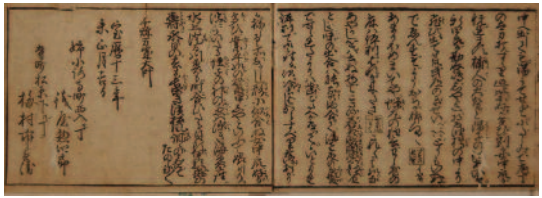
082　一休はなし　巻之中　　題簽欠　享保頃刊カ　　半１冊　10,000
083　新板繪入　やまとことば　　虫喰い傷み欠丁　享保頃刊　　中１冊　5,000
084　當世下掛　酒宴小諷百番　　簽　享保５年７月吉日　　中１冊　25,000

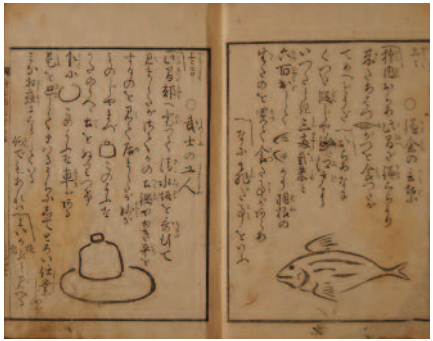




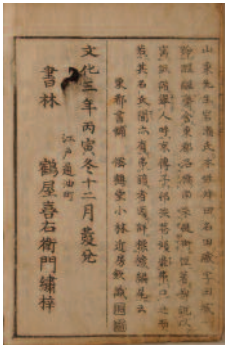
085　評判龍美野子　下巻　簽欠　虫裏打補修　寶暦 13 年正月刊　　小横 1 册　10,000
086　滑稽噺圖會　前編下巻　　簽　時成自画　天保 3 年刊　　半 1 册　5,000
087　題未詳本　　題簽欠　弘化 3 年　　中 1 册　5,000
　　=版心「夢」京／源平堂　江戸／高岡軒　大坂／中田庵中

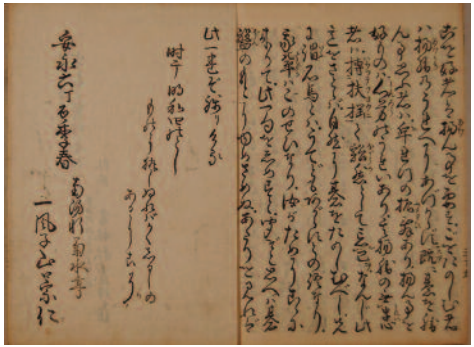


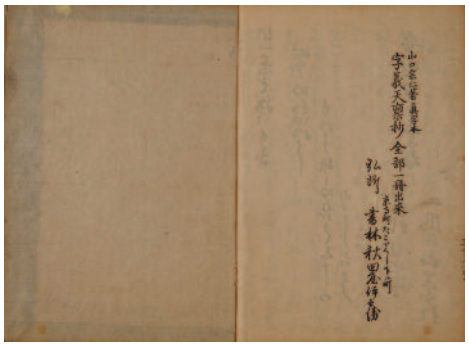




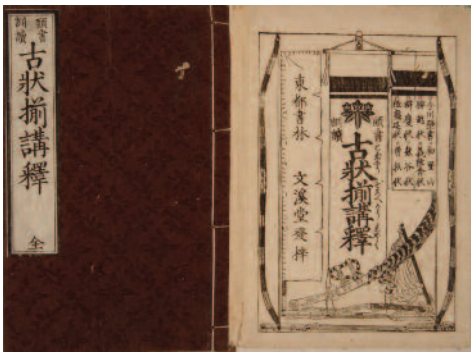
088　うとふ　前編巻２〜６（尾）簽　　山東京傳著　文化３年刊　　半５冊　品切れ
　　=善知安方忠義傳　鶴屋喜右衛門繍梓
089　三道明君抄　　簽　一風子山口宗仁　安永６年春刊　　半１冊　15,000

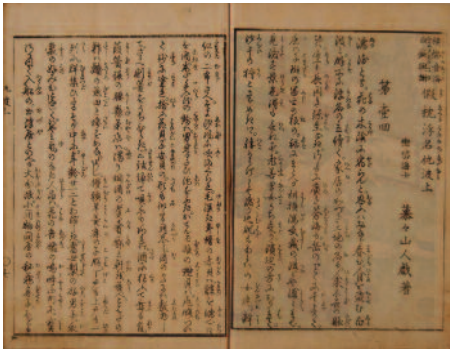






090　増補壽命雜書万年暦　簽欠　仙鶴堂鶴屋喜右衛門板　安永８　　中１册　10,000
091　才子必讀　當世奇話　初篇巻上　簽欠　何毛呉餡内　無刊記　　中１册　3,000
　　＝下巻欠　以下未刊
092　上州機筆綾織　中巻　　柳亭種彦校　貞秀画　天保年６序　　中１册　品切れ
093　頭書訓讀　古状揃講釋　簽袋附　芳藤画　美本　丁子屋無刊　　中１册　5,000



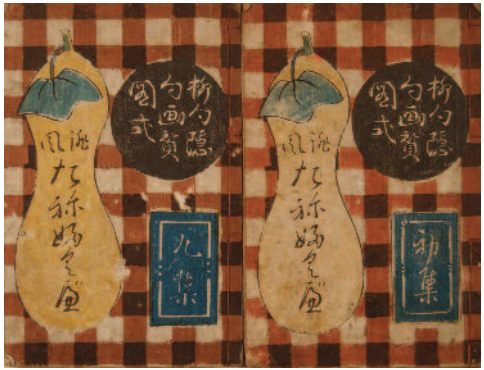


094　假枕浮名の仇浪　　上中下巻　　嘉永7年刊の説あり　　半3册　品切れ

=内題「横櫛音海向疵與謝假枕浮名の仇浪」

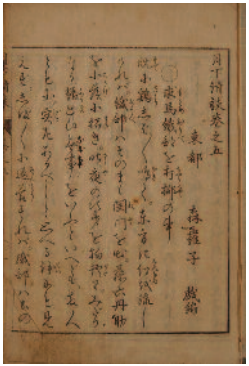
戀岱淫士／慕々山人戯著　婦喜用又平画　美本

慕々山人は假名垣魯文が自身の習作期に書いたとされる艶本に多く用いた戯號。本書は魯文の艶本中、最も豪華な刊本であって第一作に擧げられる作品として注目される。以下後續の艶本は中本であるが本書は半紙本である。



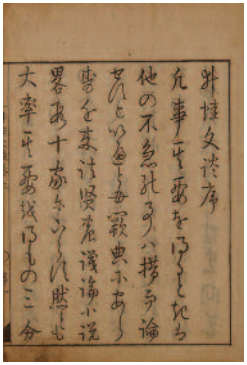
095　釋花八粧矢的文庫　上中下巻　　簽　安政六年序　　半3冊　品切れ
　　=淫水亭開好作　國盛画　美本

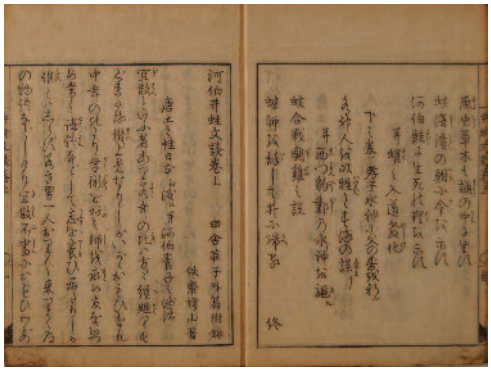
096　俳風　やなぎだる　初集・九集　　天保 15・弘化 2　　中 2 冊　10,000
　　=三友亭益亭評

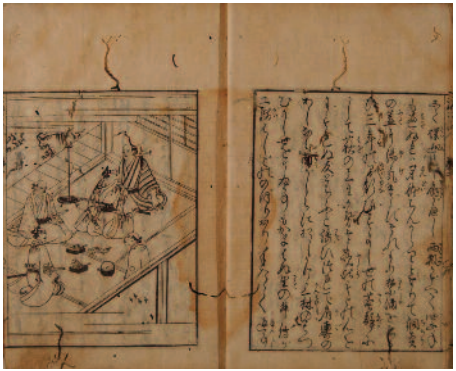


097　新編車僧　轍物語　巻之１　　簽欠　やや傷み　文化５年序　　半１冊　10,000
　　=平安／鶉床主人著　歌川豊秀画

098　月下清談巻之五（大尾）東都／森羅子戯編　寛政 10 年發兌　　半１冊　品切れ
　　=森羅子後序

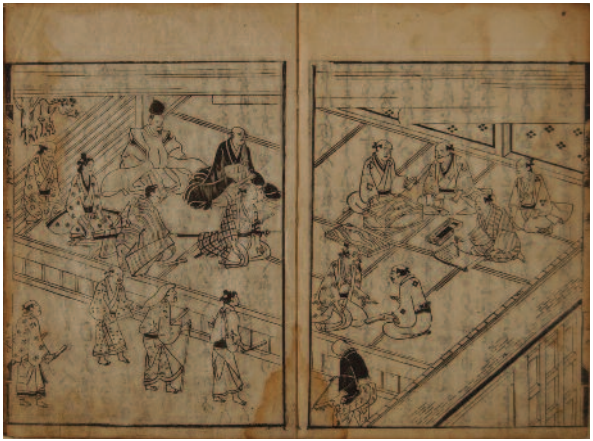


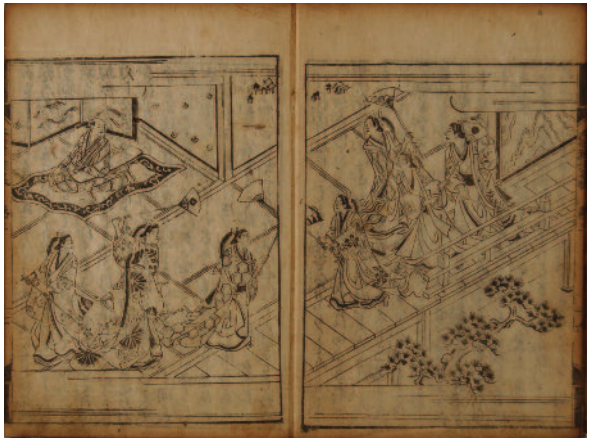




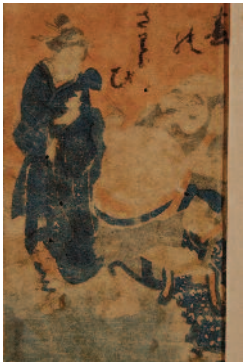
099　井蛙文談　上中下巻　　簽欠　佚齋樗山著　享保 13 年刊　　半 3 冊　15,000
　　=田舎荘子外篇附録　下巻の末尾 9 丁に激しいウマクイ　欠字有り
100　世の是沙汰　巻ノ 2　　簽擦れ　西樂著　寶永 3 年刊（國書）　　半 1 冊　15,000
　　=浮世草子　全 5 巻の内

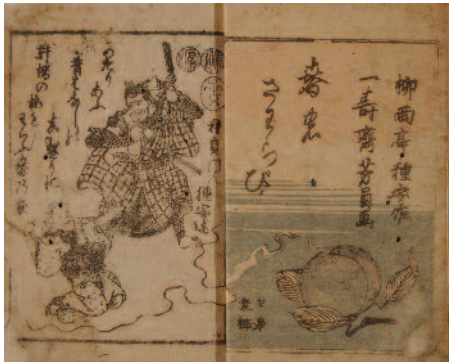
101　日本永代藏　　大福新長者教　　簽　貞享五年刊　　大４册　400,000
=巻１・２・３・５（全６巻ノ内）。巻４ト巻6を欠くものの虫喰いもなく、若干染みがあるが比較的保存良好。柱題「大福新長者教」。異版などを含めて數多くの諸本があるが、本書は三都、若しくは二都と呼ばれる比較的早い摺の傳本である。





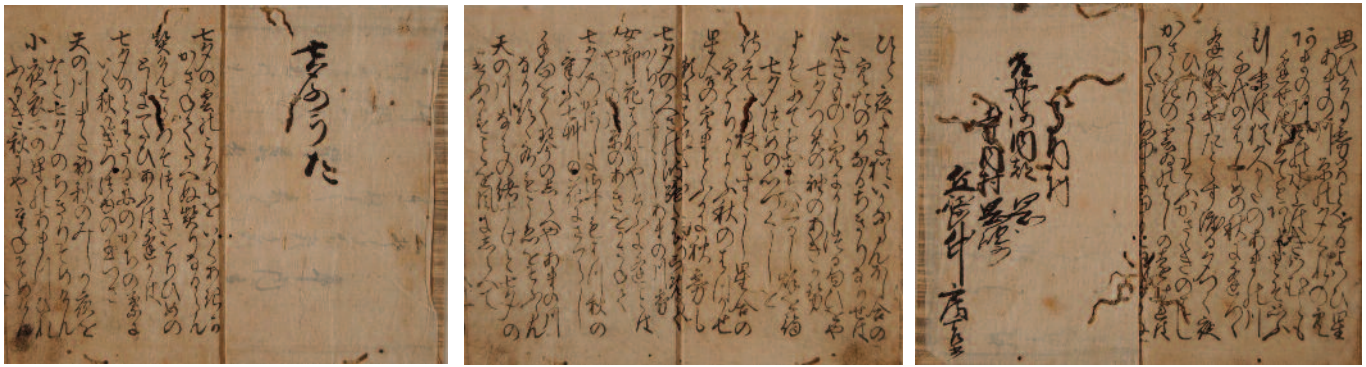
102　日本　新永代藏　今世長者鑑　　簽　正徳三年刊　　大２冊　150,000
=巻1・2（全6巻ノ内）　鳳城團水自序　全ての插繪に丹緑黄の古着彩あり。
表裏紙と四周に柿渋が塗ってあるため虫喰いは全くない。



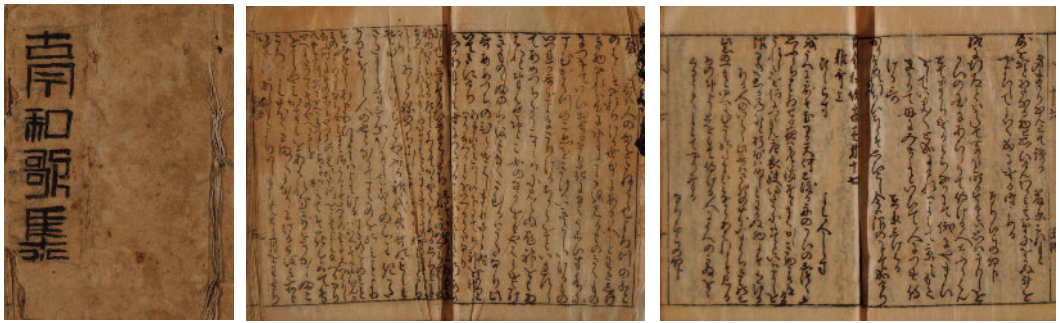


103　春のさわらび　　一壽齋芳員画　甘泉堂梓　無刊記　　極小１冊　品切れ
　　＝子ども繪本　柳雨亭種安作　裏打　18丁　被せ表紙つき

104　豆本　百人一首　刷外題　巻首虫損　紅葉□板　無刊記　極小1冊　　品切れ



105　豆本　七夕のうた　　整版８丁　無刊記　江戸後期刊　　極小１冊　25,000
　　=少虫　本の大きさ 12×8.2㎝



106　豆本　古今和歌集　　雁皮紙刷　巻首傷み　江戸後期刊　　極小１冊　20,000
　　=巻末數丁欠　本の大きさ 8.2×6.0㎝

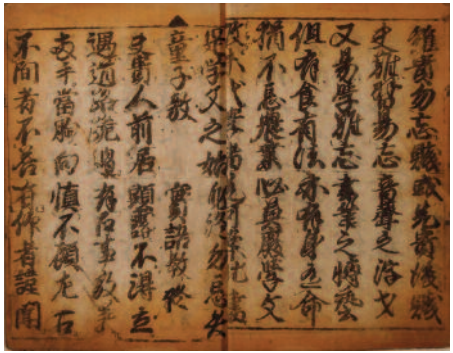
107　狐の嫁入　　表紙巻首虫　9.0×5.8㎝　江戸末期刊　　極小1册　品切れ

108　朝比奈一代記　　表紙虫　泉市板　江戸末期刊　　極小1冊　品切れ

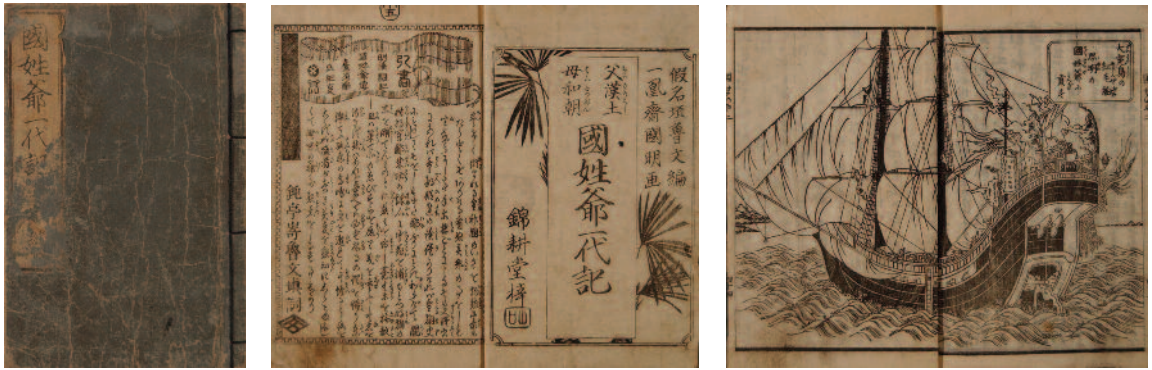
109　義經一代記　藤壽亭志るす　貞秀画　山口板　江戸末期　　極小1册　品切れ

110　金時一代記　　下方角削れ　裏紙欠　小森宗次郎　明21　　極小1冊　品切れ

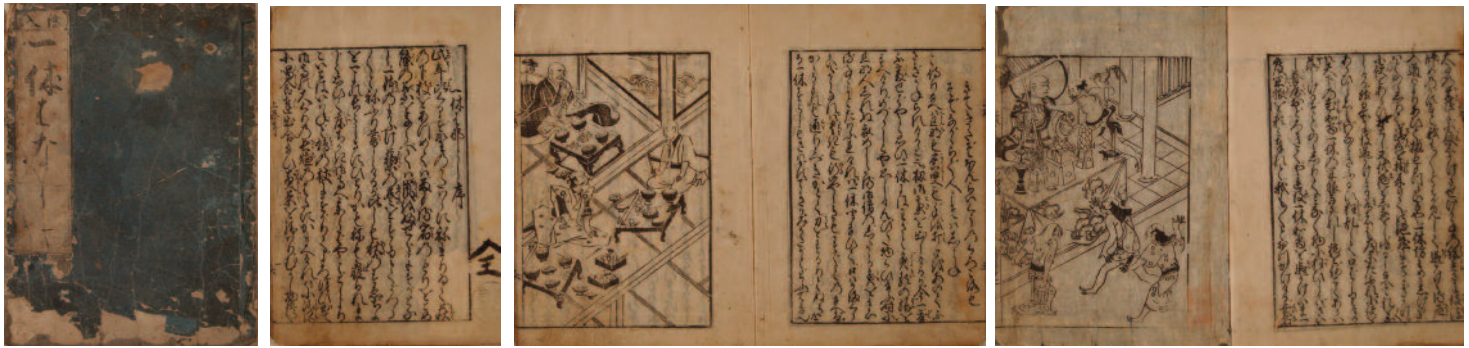
111　浮世　膝栗毛　王子滑稽之部　上巻　　簽　無刊記　　中１冊　品切れ
　　=内題「世界諸事　花の下物語」十返舍一九自序閲　長二楼乳足著



112　實語教童子教　古改装　鱗形屋孫兵衛板　無刊記　元禄頃刊　　中１冊　15,000

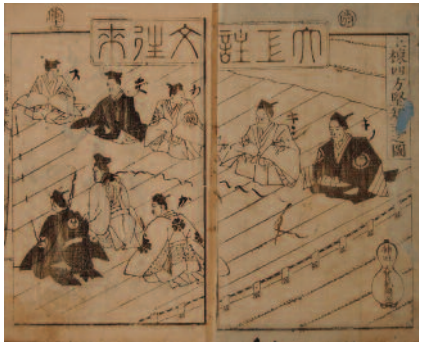


113　國性爺一代記　第２編　　簽　錦耕堂梓　安政二年刊　　中１册　20,000
　　＝假名垣魯文編　一鳳齋國明画



114　繪本　一休はなし　巻１（全４巻）　　簽　寛文８年刊か　　半１册　15,000

115　西鶴織留　世の人心（柱題）巻３　　改装本　殘存 16 丁　　大１册　10,000
　　=井原西鶴作　虫　首尾欠丁



116　番匠作事往來　　簽欠　整軒玄魚校　大賀範國圖　無刊記　　中１册　15,000

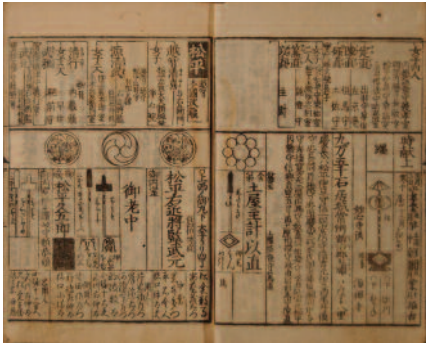
117　増補暦略註　簽欠　大和田註輔・西村源六他刻　文化６年頃　　半１册　5,000

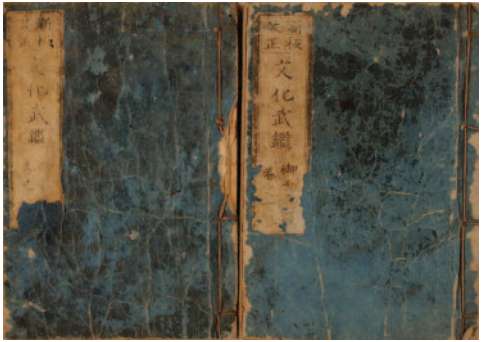
118　伊呂波韻　　丹表紙　原装釘　題簽欠　寛永16年刊　　小1冊　品切れ

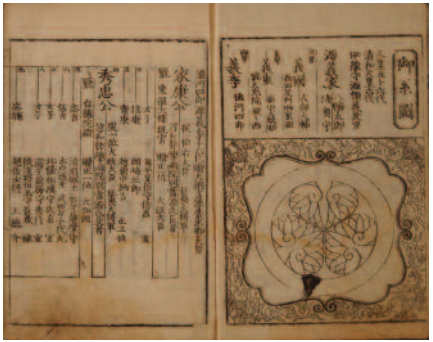
＝「寛永拾六己卯歳孟春吉辰／二條通靏屋町／仁左衛門」。14.6×12.2㎝。枡形本に近い判型。表紙には墨書で「伊呂波鏡」と記。『伊呂波韻』における初板。正保3版、慶安3版、享保19版、天明4版とつづく。

119　泰平　寛文武鑑零葉　　破れ殘存12丁　寛文年間刊　　中１册　品切れ

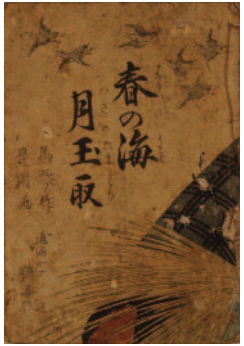
=書名は『弘文莊待賈古書目』第６號の70番に圖掲される武鑑に倣った。三段組みの版式及び體裁がそっくり同じなので寛文年間刊の武鑑と斷定した。首尾欠。但し表紙は原裝と思われる。

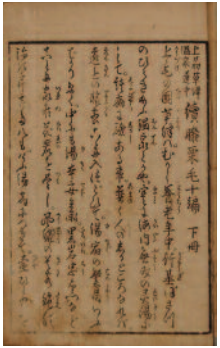


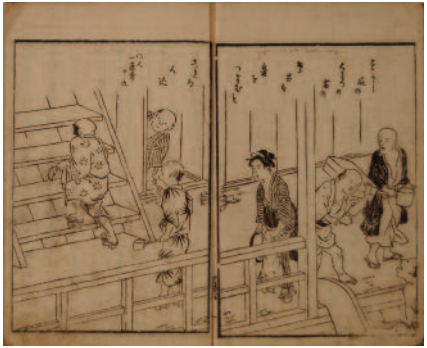


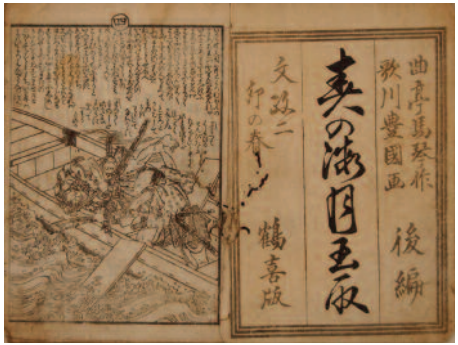


120　新改　明和武鑑　巻２.３.４（巻１欠）巻２の目次少欠損　　小３冊　品切れ
121　武家擥要　　簽　文政13庚寅年春 三ッ切１冊　15,000
122　新板改正　文化武鑑　巻１.２（３.４欠）　巻２やや虫損　　小２冊　10,000
123　往來物の一括　　題簽附　弘化・嘉永頃刊　　中７冊　品切れ
＝２冊ある『永徳商賣往來』は異板。

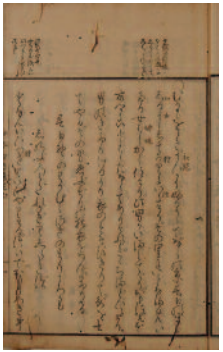


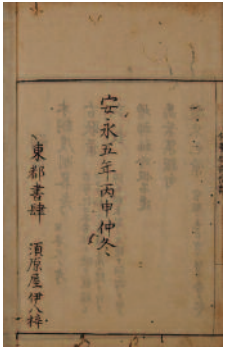


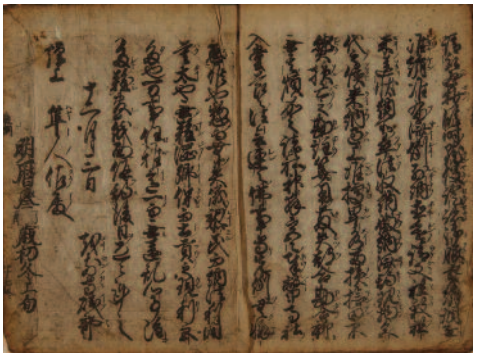




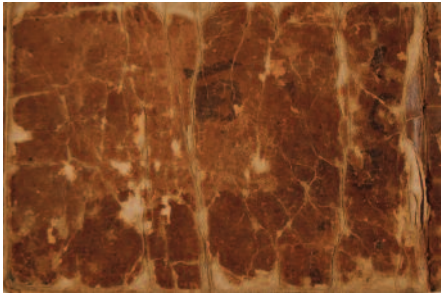
124　黄表紙　版心「一ツヤ」　21～25丁（大尾）取次所岩戸屋　中１冊　10,000
125　春の海月玉取　後編　虫有　曲亭馬琴　歌川豊國　文政２　中１冊　15,000
126　上州草津温泉道中　續膝栗毛十編下冊　簽欠　一九　無刊　中１冊　10,000
127　伊達大評定　上冊　玉光齋主人序　龍川漁者編　無刊記　中１冊　5,000







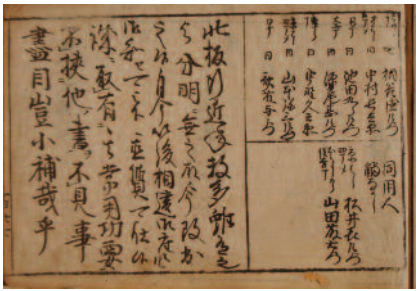
128　伊勢物語傍注　上下巻　簽　やや虫　加茂季鷹　安永５刊　大２冊　25,000
　　＝岡田御風序　東都書肆／須原屋伊八梓
129　世話千字文繪抄　簽欠　木村明啓編　曉鐘成画　天保９刊　半１冊　10,000
130　庭訓往来　原装　簽欠　明暦３年初冬上旬刊　大１冊　10,000

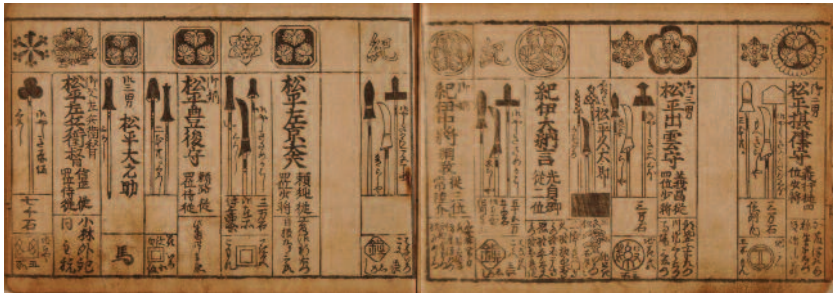


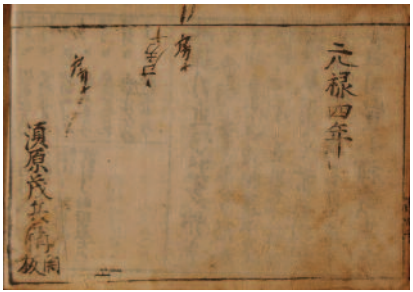
太平武鑑序

河出圖天道開洛出書地理明矣君臣則之化溢於四海吾朝文明之時所不能無之者太平武鑑也因錄梓而寶之矣豈十萬歲而已哉

太平武鑑　目録





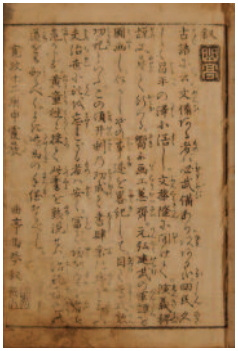
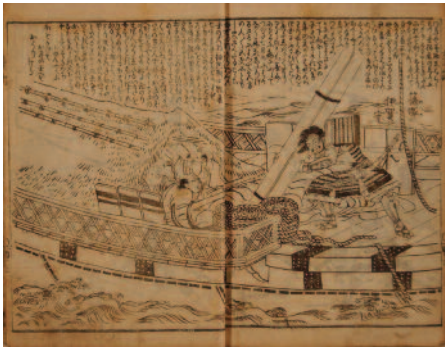
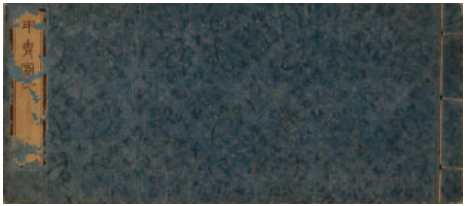
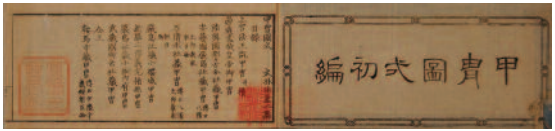


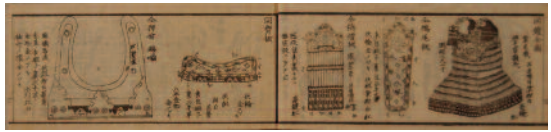
元禄四年

須原茂兵衛開板

131　太平武鑑　　題簽欠　原装本　須原屋茂兵衛開板　元禄４年刊　　小横２冊　品切れ

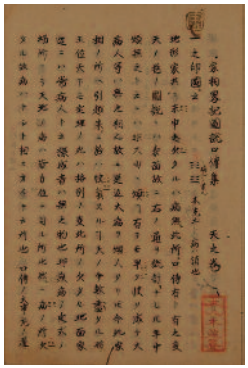
132　大廣益會玉篇　巻第二十～二十三元合本　　原装　寛永刊　極大１冊　15,000

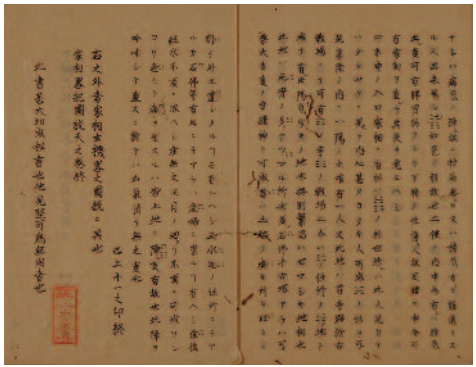







133　太平記（柱題）　　題簽欠　曲亭馬琴自序　寛政12年序　　中１冊　30,000
　　=北尾政美造　鶴屋記右衛門・丁子屋平兵衛

134　甲冑圖式　初編　　簽　栗原孫之丞藏板　天保14年刊 三ッ切１冊　15,000

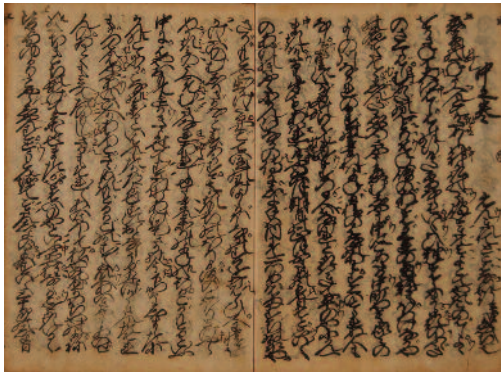


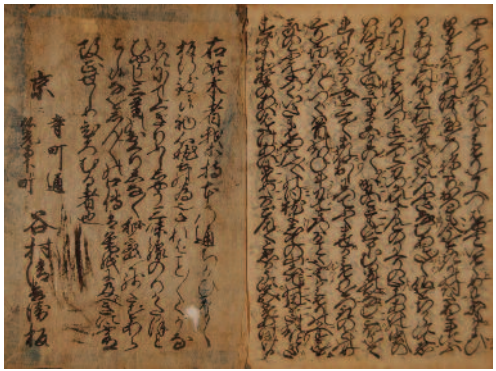


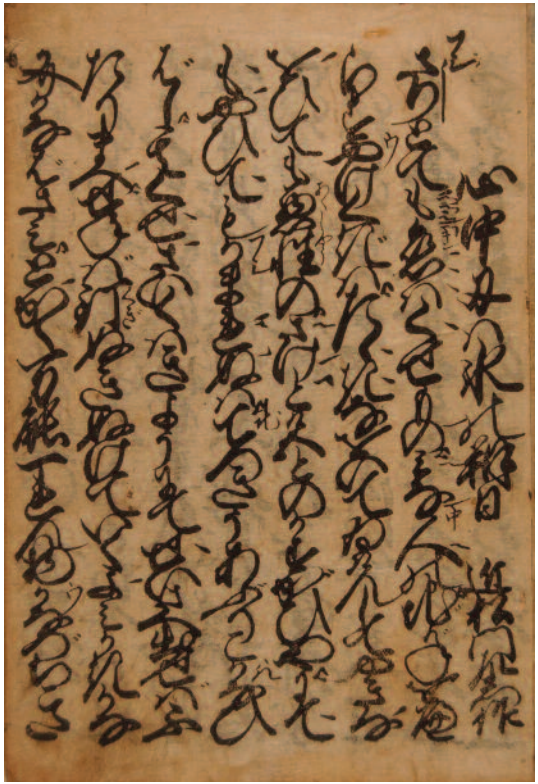
135　開談栄花丁稚　　原装　題簽欠　戸嶋奥次郎　無刊記　　半１冊　50,000

136　家相畧記圖説口傳集　天之巻　　寫本21丁　文化２年寫　　半１冊　15,000

　　=臼井完族書







137　心中刃ハ水の朔日　簽欠　原装本　近松門左衛門作　無刊記　　半１冊　品切れ
　　＝寶永６年頃初演　京寺町通／谷村清兵衛板

138　倭玉篇　　上中下巻　　慶長15年刊　　極大３冊　800,000

＝慶長版の倭玉篇たる堂々とした大形本。縦25.5㎝。横20.6㎝。

奥書「慶長庚申戌仲春日」と刻すはずの刊記のある最終丁を欠逸する。

慶長15年整版本は川瀬一馬著『増訂　古辞書の研究』によれば異版３種が存在すると云う。それによると最初の版を（イ）本とし、（イ）本と同板木で刊記の次行に「於洛陽二條通仁王門開板焉」の一行を追刻した一本を（ロ）本とする。（イ）本の刊記の儘に（イ）本をその儘覆刻したものが本書であり「覆慶長15年刊本」とする。それは早稲田大學が二本所蔵する慶長15年刊の（イ）本と本書を同じ覆慶長15年がＰＤＦで全丁確認でき斷定した。

澁表紙古改装本。上巻／目録第一丁表欠。中巻／目録第一丁表柱部側破損。下巻／最終丁（第七一丁）欠。その他少虫と傷み。

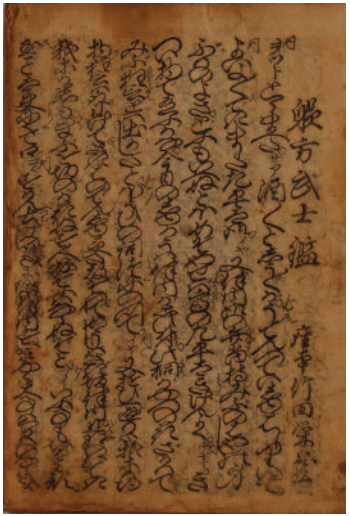
竹馬堂　守一

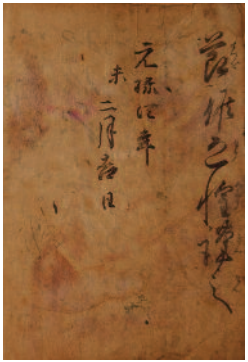
正徳六丙申歳正月吉辰
向井八三郎板行

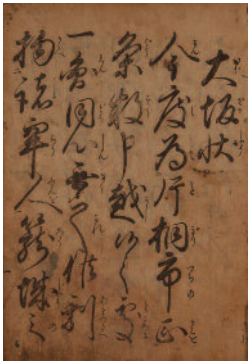
139　新薄雪物語　　正徳六丙申歳正月吉辰　　大４冊　200,000

=浮世草子。巻１・２・３・５（大尾）巻４欠。原装。題簽剥落。各巻内題ノ下ニ「みやこ賢女鑑」。竹馬堂守一序。

女筆工／蘭溪筆。繪師／大森善清。書林／向井八三郎板行。巻一ノ喉之二丁程ニ小穴有り。京で西川祐信とほぼ同時期に活躍した浮世繪師大森善清の画んきよる浮世草子にして善清ノ代表作の一つ。一説に女筆蘭溪の名を奥書に刻すは珍しいと云う。男女の往復書簡を主とした戀愛小説。





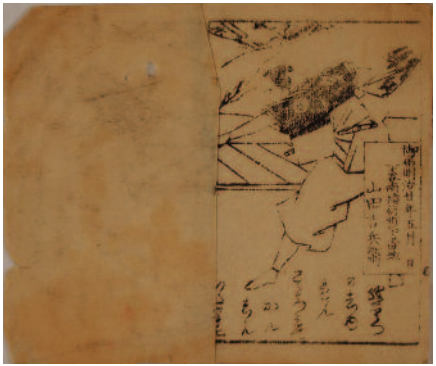


140　躾方武士鑑　　簽　近松半二・松田ばく他作　明和九刊　　半１冊　50,000
　　＝巻首少傷ミ。板元報條破レ。

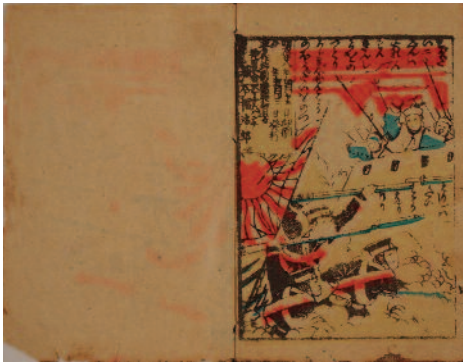
141　大坂状并返状　　簽　元禄四年未二月吉日　　大１冊　15,000

142　猫の志ばい　　合羽摺　小森宗次郎發行　明21　　極小１册　品切れ
143　狐嫁入　合羽摺　五丁モノ　芳川町加賀やばん　無刊　　極小１册　品切れ

144　鼠の嫁入　　合羽摺　六丁モノ　無刊記　　極小１册　品切れ
145　金時化物退治　　大金加藤金治良發行　明22　　極小１册　品切れ



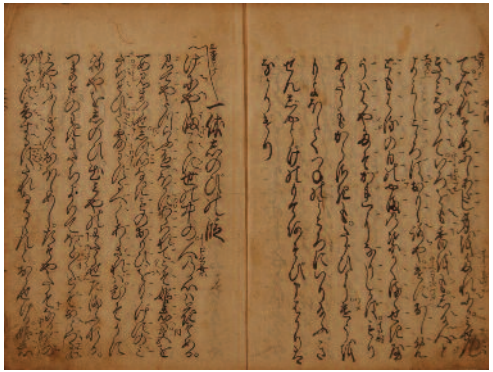
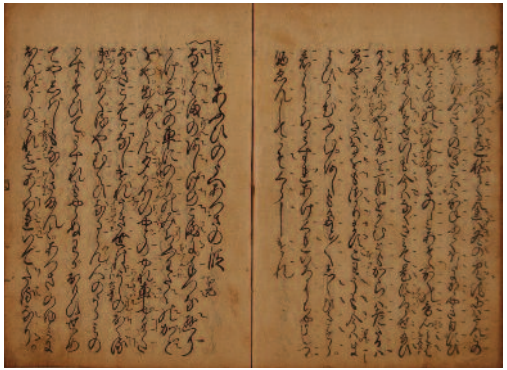
146　伊賀越　　山田吉兵衛　明20　　極小１册　25,000
147　兒童教訓　かちかち山話シ　　城石福次郎著刊　明29　　中１册　品切れ
　　＝合羽摺　裏紙破れ他にも切れがあるが欠損は無し　未補修

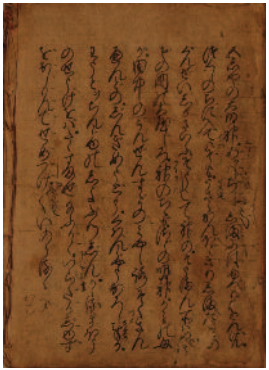


148　征清大勝利戰記　　合羽摺　城石福次郎著刊　明28　　極小1冊　20,000
149　征清軍記大激戰　　合羽摺　城石福次郎著刊　明28　　極小1冊　20,000

150　繪本楠公三代記・繪本眞田三代記・繪本岩見武勇傳　　明35　　極小３册　品切れ
　　＝大阪／松田槌太郎著刊　合羽摺　8.0×6.0㎝

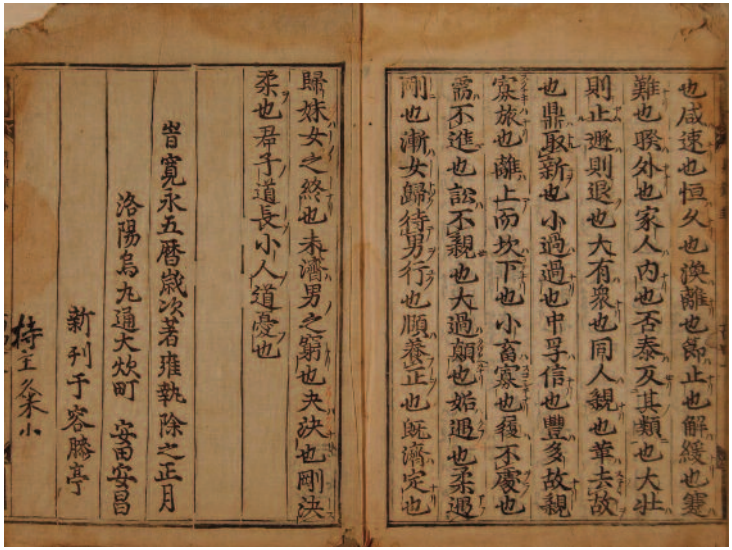
151　子ドモ遊ビ替リ繪ノ一括　　小４點　品切れ
　　＝『歌舞伎狂言のカハリエ』合羽摺・『征露陸軍將校替リ畫』合羽摺
　　『子供遊替繪』有山留吉画刊／明29・『稲荷祭狐ばかされ』有山留吉画刊／明31



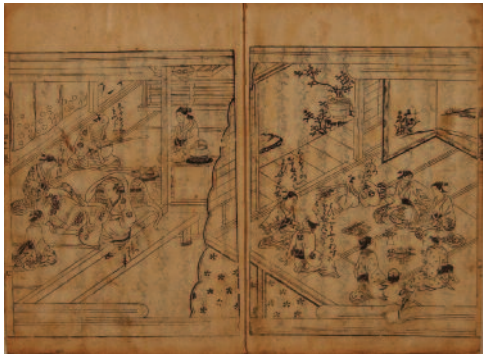
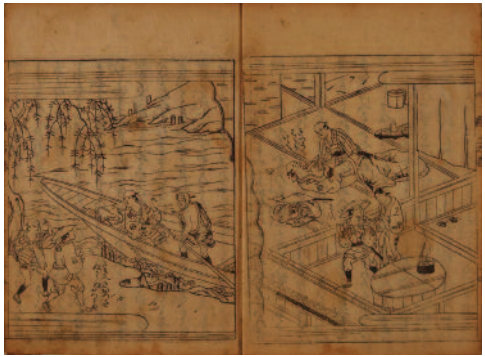
152　稽古淨瑠璃　　刊年不明　　半１册　品切れ

＝土佐少掾か。裏紙欠。表紙は僅かに原装の栗皮色表紙が殘存する。見返しの目録によれば全部で32ノ段物を示すが、目録に記すも實際には無おものや目録に無くとも収録される段物がある。奥書も無いが最後の丁が末丁であろう事と落丁している雰囲氣が無いので本文としては完本であろう。『國書』では「土佐少掾稽古淨瑠璃大全」と題す傳本が早稲田大學の演博に唯一所藏されているようだが同一本であるかは不明。版式や形態から見て元禄末～寶永頃の刊行と推定する。目録に傷み。



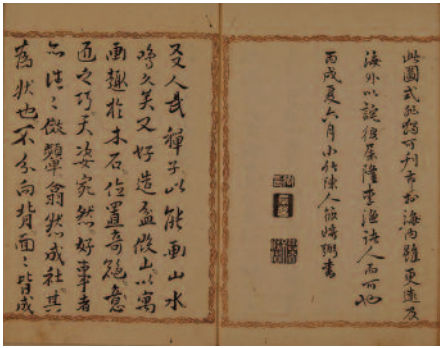
153　易經　　下巻か　　寛永５年刊　　大１册　50,000

＝藤原惺窩點。『五經』の内。奥書「寛永五暦歳次著雍執除之正月／洛陽烏丸大炊町／安田安昌／新刊于容膝亭」。52～41丁。柱題「易象」「易係辞」「易文言」「易説卦」。表紙古改装（江戸後期）。裏表紙原装（栗皮色表紙）。板元の安田安昌は藤原惺窩門下の儒者菅原玄洞（菅得庵）の弟子であった。しかし玄洞は弟子の安昌を家畜の如く虐待し安昌の怨みをかって丁度本書を刊行した年の寛永５年の6月14日祇園祭りの夜ついに師玄洞を斬殺した。この事件は當時の儒者達に大きな波紋を呼んだと云う。

154　新板繪入　渡世商軍談　　巻之２～５大尾（巻之１欠）　　無刊記　　大４册　200,000

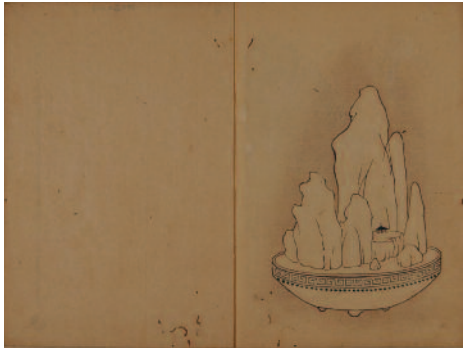
=江島其磧著。江嶋屋市郎左衛門板。浮世草紙。『國書』によれば正徳３年刊。原装題簽附。染み。插繪２圖に少し毟り取り傷穴あり。一説に最も賣れた浮世草紙作者と云われ、自笑の八文字屋本の代表作者として名高い其磧だが、自笑とは寶永末から不和とだり７～８年後の享保３年に和解したと云う。その説ガ正しければ本書は丁度その不和の間に出板した作品となる。巻之１を欠く欠本ながら原装題簽附の稀少傳本である。

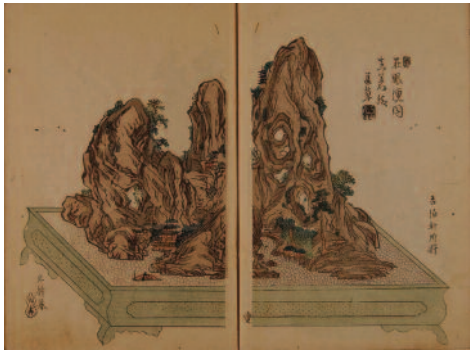


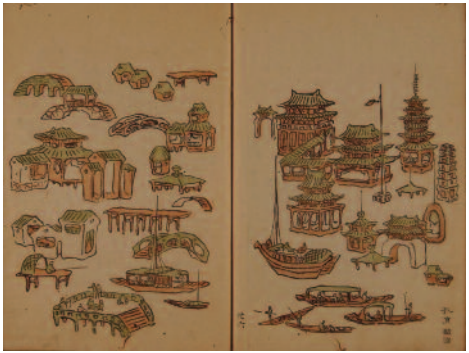
155　占景盤圖式　　天地揃　　簽　文化５年序　文政９年刊　　大２册　品切れ

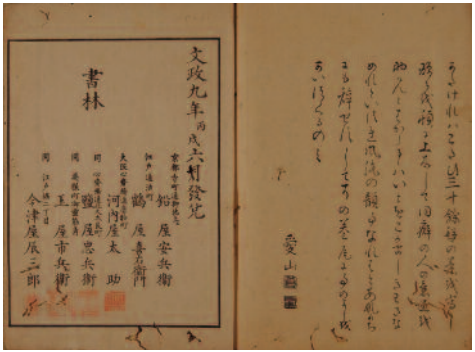
＝墨江武禪原著　墨江愛山編　早印良摺の原装美本ながら天巻の表紙から初丁にかけてやや深い虫損あり。他僅かに虫損。

本書の明治大正版が一般に流布するが文政版の初印傳本は稀。



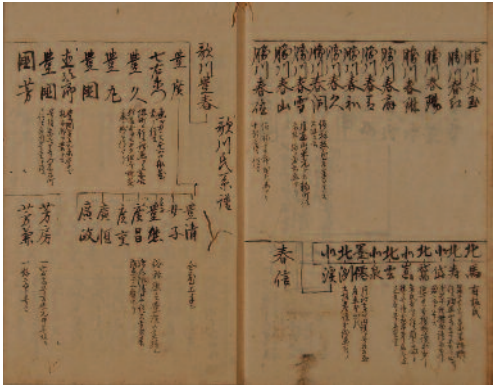


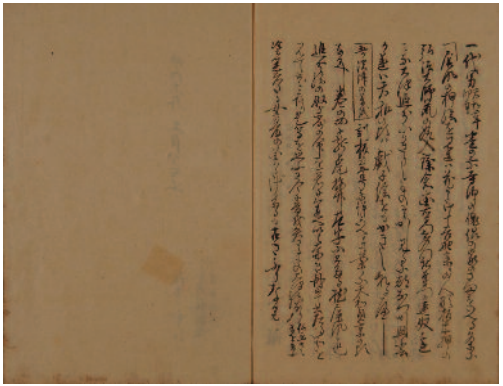


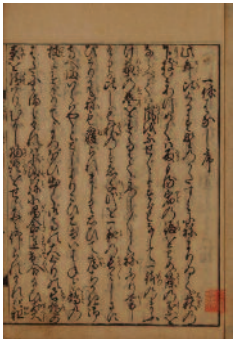
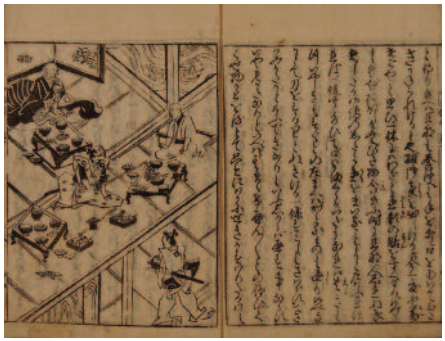

文政九年丙戌六月發兌
書林
今津屋辰三郎

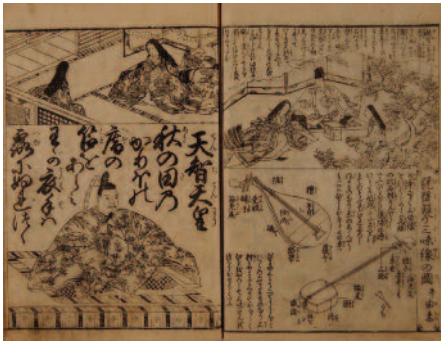
156　新増浮世繪類考　　明治18年12月下旬寫　　半１册　180,000

=太田南畝原撰。慶應戊辰春／龍田舎秋錦序編。梅亭雪江寫。78丁。傳寫本のみにて刊本は存在しない。起源は太田南畝の原本を基に笹屋新七が系譜を加え、山東京傳が追考を加え更に式亭三馬も加筆して寫本が廣まり、弘化元年齋藤月岑が補記して『増補浮世繪類考』が成立。このとき月岑は公刊の意志があったと云うが叶わず。そして慶應４年龍田舎秋錦により本書が成立す。浮世繪研の最も信頼できる基礎資料として古くから評價が高い。現代では岩波文庫などで活字化されているが明治期の傳寫本はそれほど多くはない。新出の寫本と思われる。







157　妙法蓮華經出離生死血脈　　原装　題簽欠　無刊記　　大１册　25,000
　　＝四明沙門最澄撰　表紙上部角破損　寛文頃刊

158　一休はなし　巻１・２（全４巻内）　　書き簽　刊年不明　　大１册　15,000
　　＝寛文頃の板とおもわれるが後摺。化成頃の刊か。

159　百人一首　　書き題簽　神先向松堂／著屋宗八　無刊記　　大１册　品切れ